



2014年3月期 第2四半期

決算説明会資料

2013年11月11日(月)

ミツミ電機株式会社



2014年3月期 第2四半期 決算概要	P2
2014年3月期 通期業績予想	P10
事業構造改革の進捗・今後の経営戦略	P16

【免責事項】

この資料は投資家の参考に資するため、ミツミ電機株式会社(以下、当社)の現状を理解いただくことを目的として作成したものです。

当資料に記載された内容は、2013年11月11日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化などの事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資に関するご決定は、当資料に全面的に依拠することはお控えいただき、皆様ご自身のご判断でなされるようお願い申し上げます。



2014年3月期 第2四半期 決算概要

取締役 本社管理部門担当 兼 経理部統括部長

齋藤 求

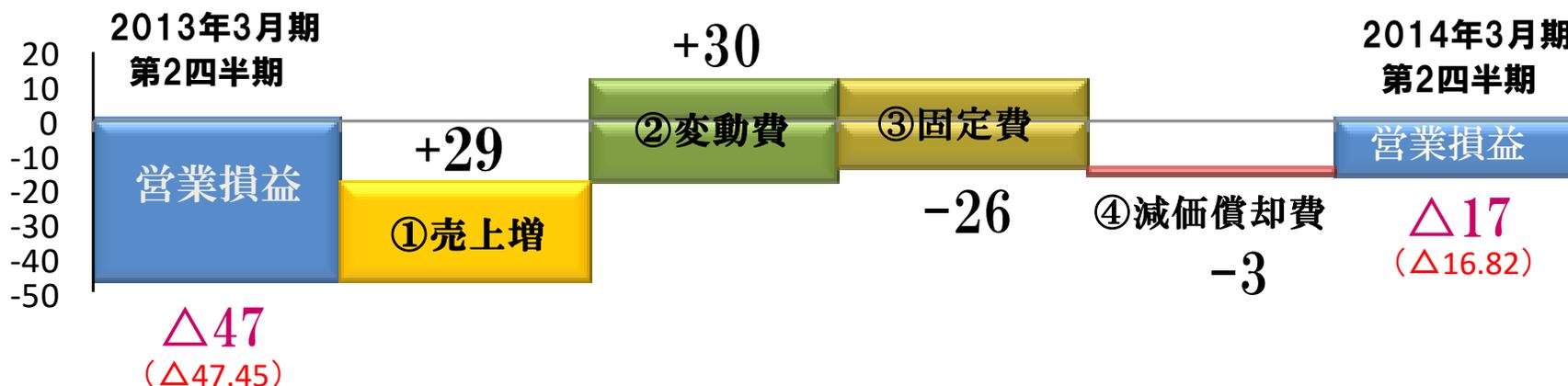
1. 売上高 : アミューズメント関連製品の受注は横ばいで推移したが、為替レートの円安効果、スマートフォン・タブレットPCなどの情報通信端末用製品および車載関連製品の受注の増加により78億円の増加
2. 営業利益 : 売上高の増加に加えて高付加価値製品の構成比が上昇し、31億円の改善
3. 経常利益 : 為替差益の計上などにより47億円の改善
4. 当期純利益 : 2013年3月期に発生した特別損失要因の解消により106億円の改善

	2013年3月期 第2四半期		2014年3月期 第2四半期		対前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	68,287	100.0	76,095	100.0	+7,808	+11.4
営業利益	△4,745	△6.9	△1,682	△2.2	+3,063	-
経常利益	△5,433	△8.0	△697	△0.9	+4,736	-
当期純利益	△11,831	△17.3	△1,251	△1.6	+10,580	-
為替レート (対米ドル)	79円73銭		98円03銭		18円30銭の円安	

■ 前年同期比 +31億円

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ① 売上高が78億円増加したことによる付加価値の増加 | +29億円 |
| ② 高付加価値製品の構成比の上昇と変動費改善による限界利益率の上昇 | +30億円 |
| ③ 情報通信端末・アミューズメント関連新製品の量産化に伴う固定費の増加 | △26億円 |
| ④ 情報通信端末関連の新規投資に伴う減価償却費の増加 | △3億円 |

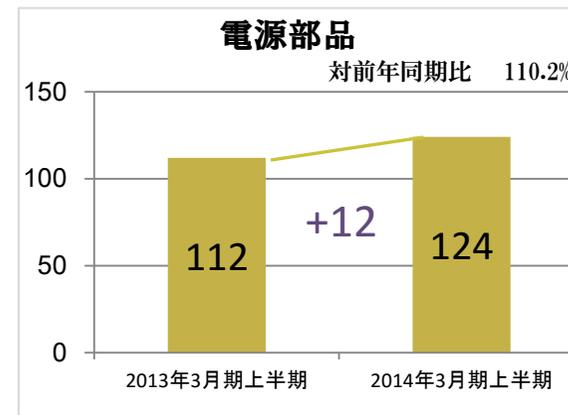
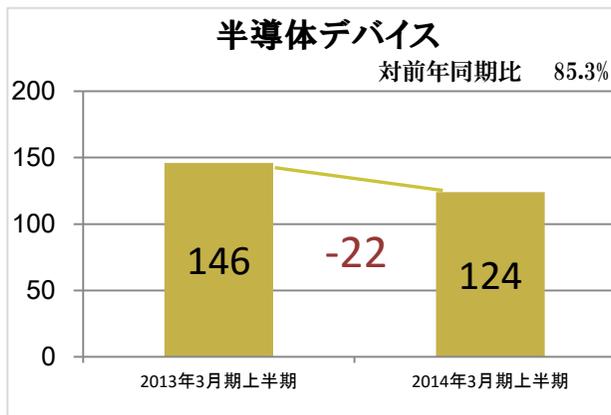
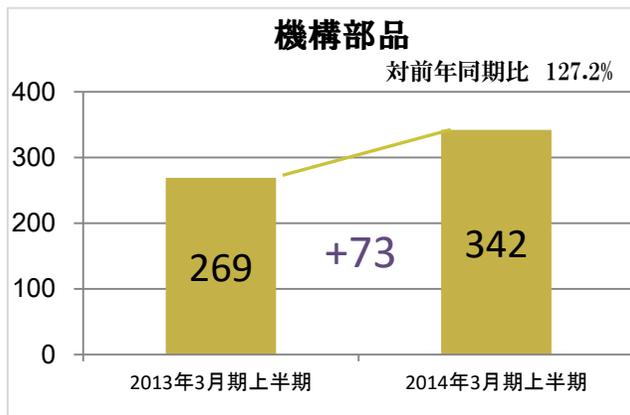
(単位:億円)



※ 億単位未満を四捨五入

1. 売上高 : 為替レートが円安で推移したことにより11億円増加
2. 営業利益 : 期初計画に対して、製造子会社で新製品の量産移行に係る費用が増加、さらに売上高構成比の変化により付加価値が低下し、12億円の損失拡大
3. 経常利益 : 為替差益7億7千9百万円の発生などにより3億円の損失縮小
4. 当期純利益: 事業構造改革費用などの特別損失が減少し、7億円の損失縮小

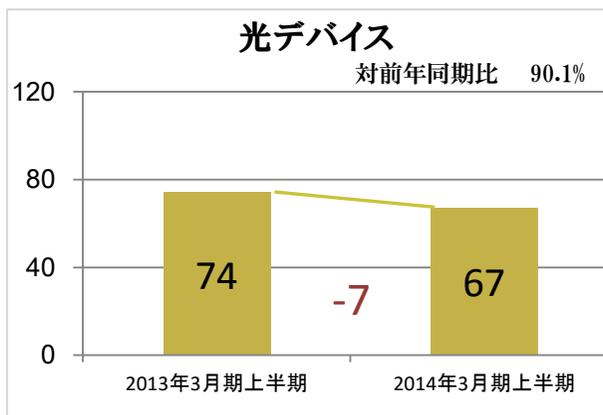
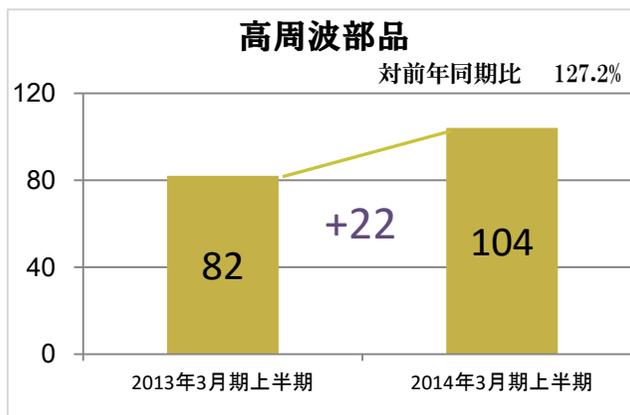
	2014年3月期 第2四半期 予測(5月9日発表)		2014年3月期 第2四半期		予測比
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
売上高	75,000	100.0	76,095	100.0	+1,095
営業利益	△500	△0.7	△1,682	△2.2	△1,182
経常利益	△1,000	△1.3	△697	△0.9	+303
当期純利益	△2,000	△2.7	△1,251	△1.6	+749
為替レート (対米ドル)	予測:95円00銭		98円03銭		—



アクチュエーターを中心に汎用品は増加
アミューズメント関連は横ばい

モジュール関連製品の減少

携帯端末関連製品の増加



(単位:億円)

注1: 2014年3月期第1四半期より製品集計区分別を変更しており、従来区分掲記していた「情報通信機器(2013年3月期第2四半期の売上高10億円、2014年3月期第2四半期の売上高14億円)」は「機構部品」に含まれております。

注2: 対前年同期比の比率は円単位の金額を基準に算出しております。

車載関連製品の増加

アミューズメント用カメラモジュールは減少
情報通信端末用・車載用カメラは増加

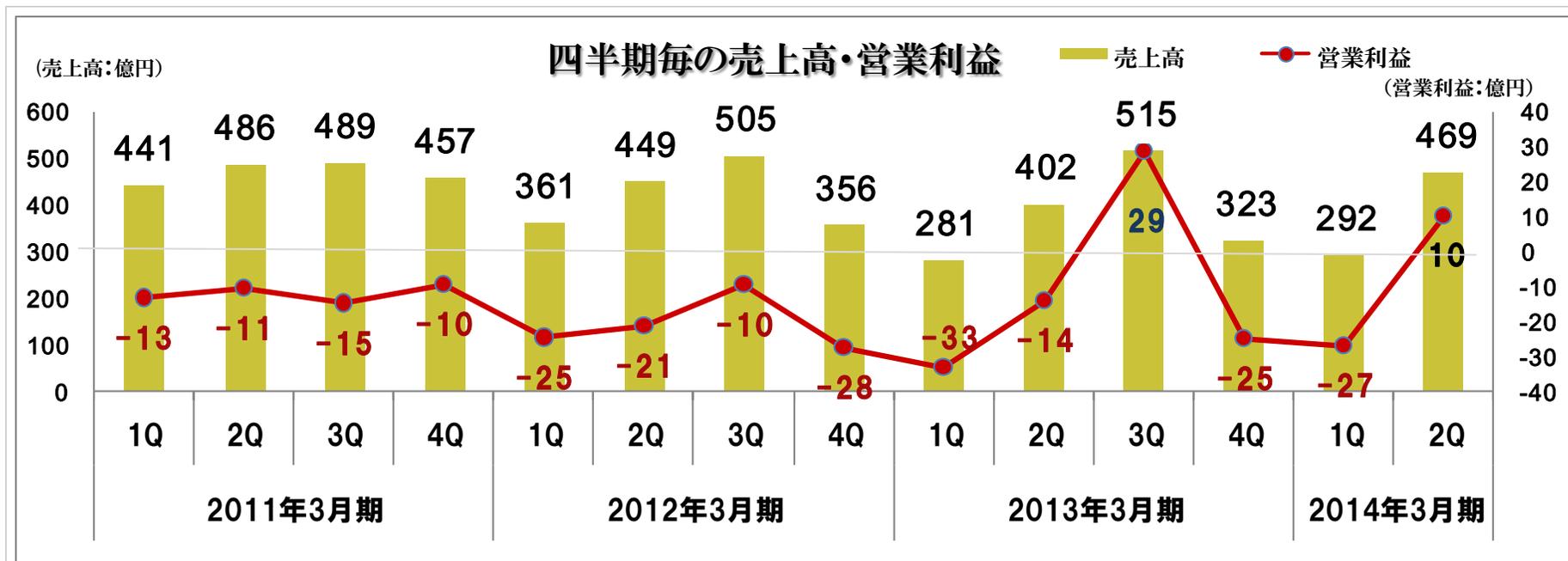
1. 資産合計 : 第2四半期の売上増で売掛金が増加、下半期の受注増に向けてたな卸資産も増加
2. 負債合計 : たな卸資産の増加に伴い、ほぼ同額の買掛金が増加
3. 自己資本比率 : 通常の季節変動要因による低下で、2014年3月末に回復する計画

	2013年3月期		2014年3月期 第2四半期		増減
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)
資産の部					
流動資産	111,962	79.6	124,987	80.2	13,025
（現金及び預金）	(45,907)	(32.6)	(33,929)	(21.8)	(△11,978)
（受取手形及び売掛金）	(34,449)	(24.5)	(49,962)	(32.1)	(15,513)
（製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品）	(29,136)	(20.7)	(39,040)	(25.0)	(9,904)
固定資産	28,649	20.4	30,881	19.8	2,232
資産合計	140,611	100.0	155,868	100.0	15,257
負債の部					
流動負債	36,653	26.1	52,108	33.4	15,455
（支払手形及び買掛金）	(20,524)	(14.6)	(35,307)	(22.7)	(14,783)
固定負債	2,437	1.7	2,467	1.6	30
負債合計	39,090	27.8	54,576	35.0	15,486
純資産の部					
株主資本	113,583	80.8	112,331	72.1	△1,252
その他の包括利益累計額	△12,062	△8.6	△11,039	△7.1	1,023
純資産合計	101,521	72.2	101,292	65.0	△229
負債純資産合計	140,611	100.0	155,868	100.0	15,257
自己資本比率	72.2%	—	65.0%	—	△7.2%

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー : 第3四半期に向けた たな卸資産増加によりキャッシュアウト
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー : 主として設備投資によるキャッシュアウト
3. フリーキャッシュ・フロー : 前第2四半期と同水準で推移し、変化は無い

	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	概 要
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
営業活動による キャッシュ・フロー	△7,701	△7,346	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,181	△5,358	前第2四半期は定期預金の預入による支出: 11,114百万円減少
(有形固定資産取得)	(△5,160)	(△5,649)	
フリーキャッシュ・フロー	△23,882	△12,704	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3	△4	
現金及び現金同等物の増減額	△24,600	△12,231	

1. 売上高 : 情報通信端末用および車載関連製品事業の伸張により事業ポートフォリオが変化し、売上高の長期右肩下がり傾向に歯止めが掛かりつつある
2. 営業利益 : 売上高の増加と高付加価値製品の構成比率の上昇に加え、事業構造改革の実施により損益分岐点が引き下げられ、第2四半期は黒字化した



※ 億単位未満を四捨五入



2014年3月期 通期業績予想

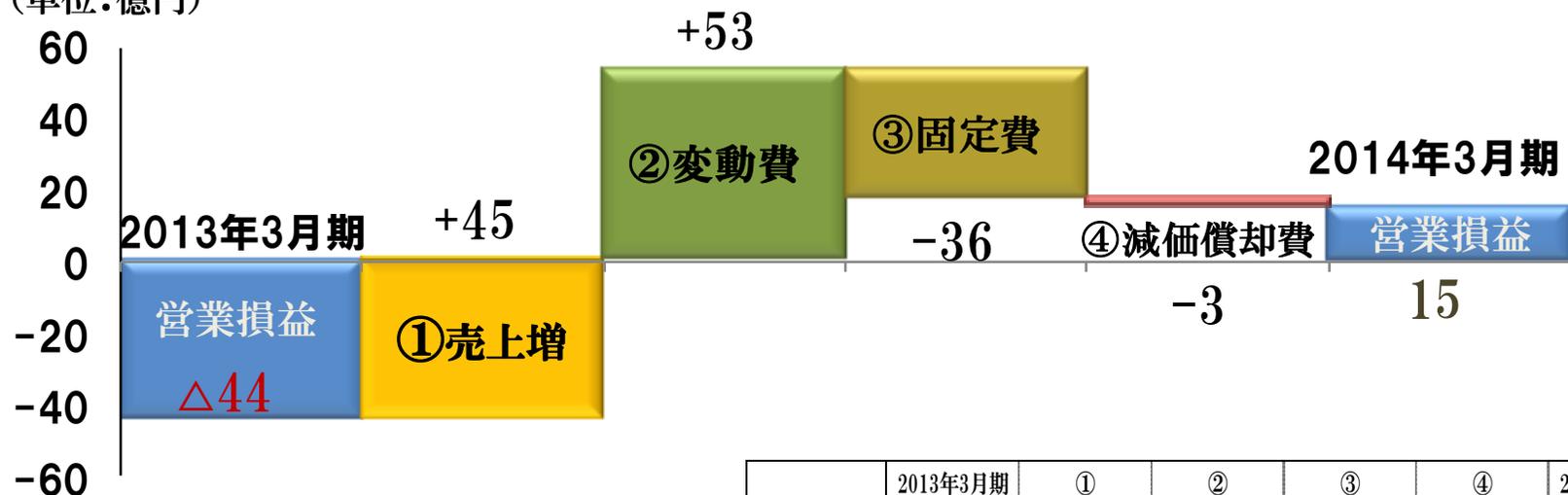
1. 売上高 : 情報通信端末用および車載関連製品が増加することにより 119億円の増加
2. 営業利益 : 売上高の増加に加え、高付加価値製品の構成比率の上昇により59億円の増加
3. 経常利益 : 為替差益の発生などにより53億円の増加
4. 当期純利益 : 2013年3月期に発生した特別損失要因の解消などにより130億円の増加

	2013年3月期 (実績)		2014年3月期 (11月5日修正発表)		増 減	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	152,098	100.0	164,000	100.0	+11,902	+7.8
営業利益	△4,382	△2.9	1,500	0.9	+5,882	—
経常利益	△3,274	△2.2	2,000	1.2	+5,274	—
当期純利益	△11,545	△7.6	1,500	0.9	+13,045	—
為替レート (対米ドル)	82円33銭		96円52銭 (上半期：98円03銭) (下半期：95円想定)		14円19銭の円安	

■ 前年同期比 +59億円

- ① 売上高が119億円増加したことによる付加価値の増加 +45億円
- ② 高付加価値製品の構成比の上昇と変動費改善による限界利益率の上昇 +53億円
- ③ 売上高が増加したことによる固定費の増加 △36億円
- ④ 新規投資に伴う減価償却費の増加 △ 3億円

(単位:億円)



	2013年3月期	①	②	③	④	2014年3月期
5月14日公表	-44	68	49	-32	-11	30
11月11日公表	-44	45	53	-36	-3	15
差額	0	-23	4	-4	8	-15

■ 従来予測(5月9日発表)からの変化

1. 売上高 : アミューズメント関連製品の受注が減少する見込みで60億円の減少
2. 営業利益 : 売上高減少に伴う投資と固定費の減少を見込み15億円の減少
3. 経常利益 : 上半期の為替差益などの営業外収益が発生したため、修正は行わない

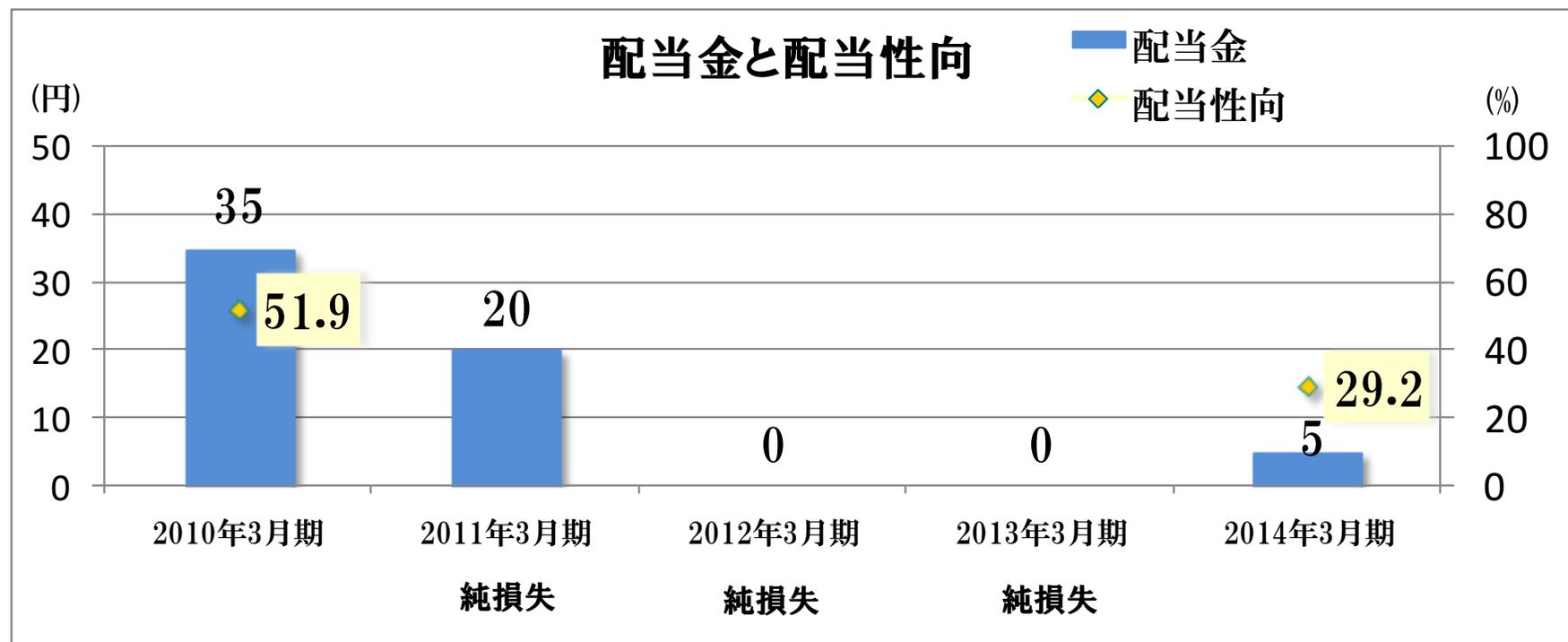
	2014年3月期 (5月9日発表予測)		2014年3月期 (11月5日修正発表)		増 減	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	170,000	100.0	164,000	100.0	△6,000	△3.5
営業利益	3,000	1.8	1,500	0.9	△1,500	△50.0
経常利益	2,000	1.2	2,000	1.2	—	—
当期純利益	1,500	0.9	1,500	0.9	—	—
為替レート (対米ドル)	95円00銭		96円52銭 (上半期：98円03銭) (下半期：95円想定)		1円52銭の円安	

1. 設備投資 : 売上高の減少に伴い15億円の減額、情報通信端末用及び車載関連の既存製品、新規開発製品への投資は継続
2. 研究開発費 : 現時点では期初計画の変更は行わない(見直しは随時行なう)

	2013年3月期 (実績)		2014年3月期 (5月9日発表)		2014年3月期 (11月7日発表)		予測比較 増減
	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期計画	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期実績
設備投資	8,610 (5,235)	5.7	10,000 (7,000)	5.9	8,500 (5,773)	5.2	△1,500 (△1,227)
減価償却費	6,852 (2,854)	4.5	8,000 (3,500)	4.7	7,200 (3,100)	4.4	△800 (△400)
研究開発費	11,022 (5,411)	7.2	12,000 (6,000)	7.0	12,000 (5,128)	7.3	— (△872)

※ 設備投資実績はキャッシュフローベース

■ 2014年3月期は、1株当たり配当5円を計画





事業構造改革の進捗・今後の経営戦略

代表取締役社長

森部 茂

中期目標

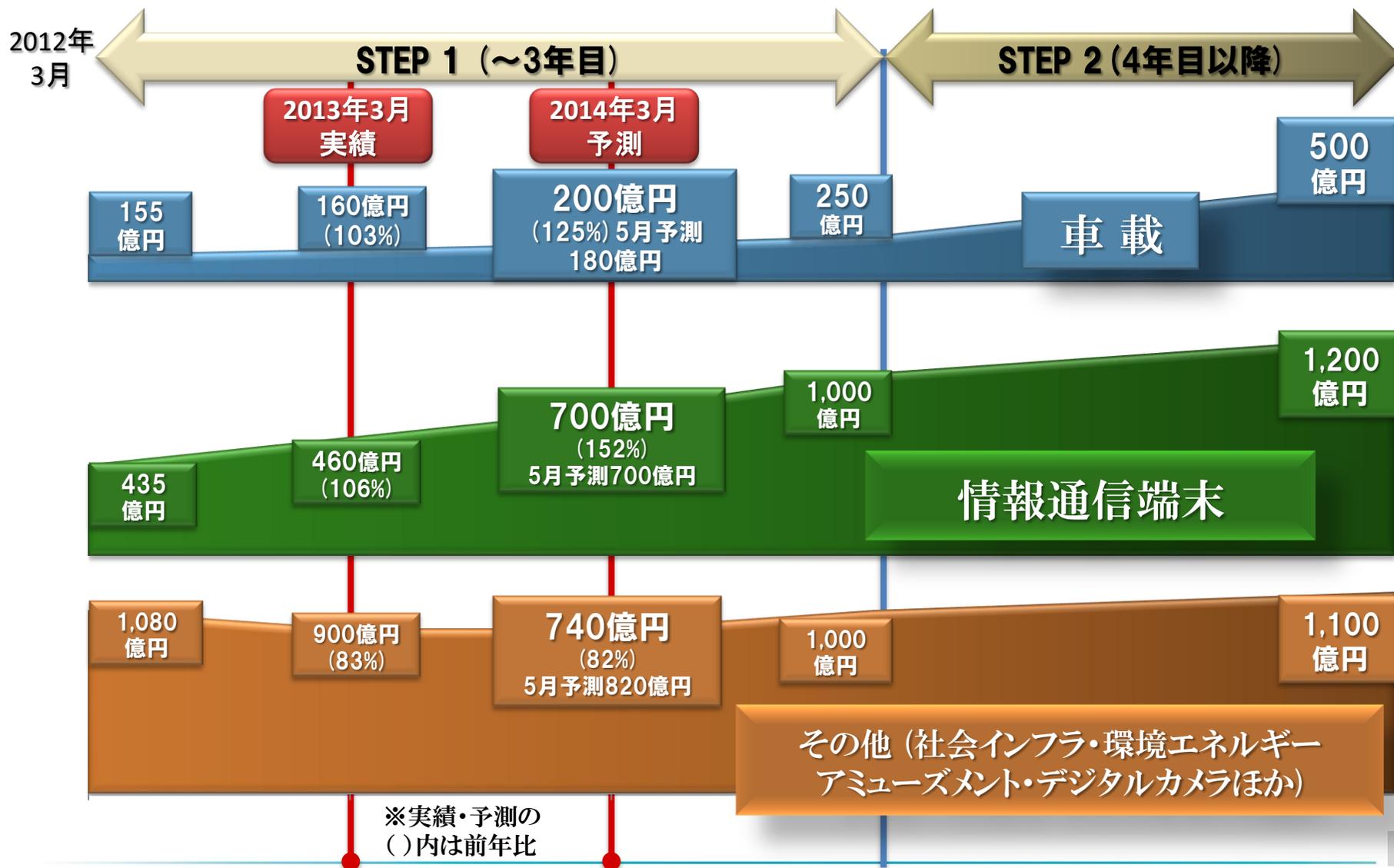
売上高3,000億円を回復する

当事業年度目標

各段階利益の黒字化と復配を達成する

事業拡大と構造改革の進捗

項目		今期売上高 (上段11月計画、下段5月計画)	状況
市場別売上目標	① 車載	200億円 180億円	計画を20億円上回る
	② 情報通信端末	700億円 700億円	計画通り進捗
	③ その他(社会インフラ・環境エネルギー アミューズメント・デジタルカメラほか)	740億円 820億円	アミューズメント関連で減少
半導体デバイス事業構造改革			10月までに計画通り完了
フィリピン拠点の拡大と中国拠点からの生産移管			計画通り進捗(フィリピンの人員比率 2012年9月 53%→2013年9月 66%)

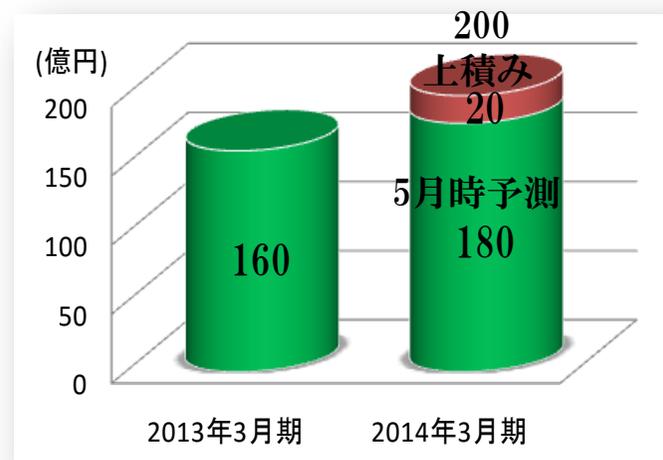


車載

2014年3月期計画200億円
中期目標500億円

1. 今期の進捗状況

2014年3月期の車載向け売上高は、2013年3月期実績160億円に対し、200億円(125%)となる見通しです。5月予測180億円に対し、20億円上積みとなる見込みです。



2. 売上高500億円に向けた取り組み

売上高500億円に向け、多くの引き合いを頂いています。技術・生産・品質の体制を早急に整えていきます。

<車内の電子機器を接続する製品>

車載インターフェイス機器、高速通信用コネクタ

<安心・安全をコンセプトとする製品>

スマートカメラ、コーナーセンサ、ヘッドアップディスプレイ用MEMS部品 (※別紙でご説明)

<車と外をつなぐ製品>

アンテナ(AM、FM、GPS、XM)、スマートアンテナ、デジタルチューナ、無線LANモジュール

車載

2014年3月期計画200億円、中期目標500億円

3. 自動車メーカーへのグローバル対応

自動車メーカーの現地調達に対応するため、米国・ドイツ・中国・韓国・タイに技術者を配置しています。さらに、自動車産業の拡大が続くメキシコにも生産拠点を立ち上げます。

- ① 中国・天津工場は車載事業の基幹拠点です。技術者と生産能力を更に増強します。
- ② 当社はタイで設計から生産まで一貫で行う唯一のアンテナメーカーです。事業拡大に向け、設計体制を増強するとともに、アンテナテストサイトも設置します。
- ③ メキシコ現地法人は、2014年4月から生産を開始します。

情報通信端末

2014年3月期計画700億円、中期目標1,200億円

1. 今期の進捗状況

① 計画通り進捗

2014年3月期の情報通信端末向け売上高は
5月予測700億円に対し、計画通りに進捗中です。

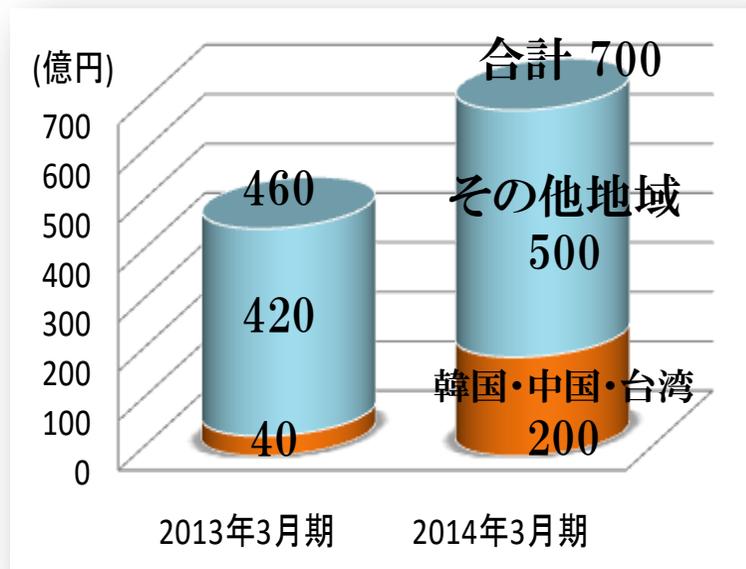
② アジア圏向け5倍

韓国・中国・台湾の主要顧客との取引が
前期比5倍に拡大します。

③ 市場シェアNo1維持

オートフォーカス(AF)・光学式手ぶれ補正機能(OIS)
付きアクチュエータ市場でシェアNo1を維持します。

OIS: Optical Image Stabilizer



情報通信端末

2014年3月期計画700億円、中期目標1,200億円

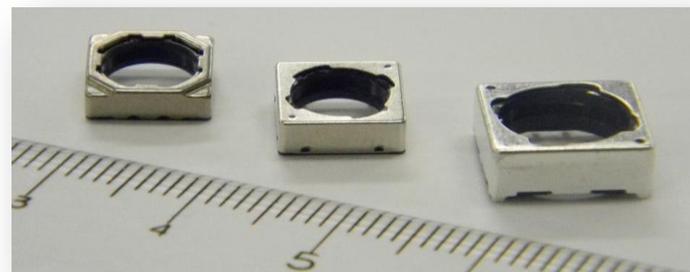
2. カメラ用アクチュエータの市場動向

- 需要予測(OIS含む)： 2013年 10億個→2015年 14億個 (当社推定)
- 求められる機能： フォーカス高速化及び位置精度向上、手ぶれ補正機能

3. 当社のカメラ用アクチュエータ事業拡大戦略

- ① 現地技術者による顧客サポートを更に強化し、市場成長率を上回る拡大を図ります。
- ② カメラ用アクチュエータのトップメーカーとして、ラインナップを充実し、市場のニーズに応じていきます。

- OIS Type (手ぶれ補正型)
- Closed Loop Type (位置検出型)
- Alternate Type (中点静止型)
- Standard Type (従来型)



情報通信端末

■ 撮影例 手ぶれ補正機能付きカメラ用アクチュエータ(OIS)

－OIS方式の利点－

暗い場所で通常のシャッタースピードで撮影すると、右写真のような暗い画像になります。

手ぶれ補正機能を付加することにより、シャッタースピードを遅くすることができ、光量を多く取り込んで、左写真のような鮮明な画像となります。



OIS機能付き



OIS機能なし

MEMSミラー

1. MEMSミラー製品の開発

既に量産中のMEMSセンサに加え、MEMSミラーを活用した製品を提供していきます。

<MEMSミラーの用途例>

車載用ヘッドアップディスプレイ、小型プロジェクタ、ウェアラブル機器用ディスプレイなど

MEMSミラーとドライバIC・制御ICを自社開発し、ソリューションまで提供することで、付加価値を創出します。

2. 体制整備

厚木半導体クリーンルームを再整備し、MEMS製品の研究開発ならびに量産体制を整える予定です。



車載用ヘッドアップディスプレイ使用例



IRに関する問い合わせ先

ミツミ電機株式会社
総務部 広報・IRグループ
TEL:042-310-5224
FAX:042-310-5168
Mail :prwmaster@mitsumi.co.jp